

Brisa de otoño con olor a bagazo y tierra húmeda.



絵・俳句:加藤とき子

オリーブと 土の香のせて 秋の風

スペイン語HAIKU: Maria Gutiérrez
Mariaさんはアルゼンチン生まれ。
現在カナリ諸島テネリフェ在住、高校の国語教師で傍ら本を執筆中。

Contenido

1. 会長あいさつ
2. 今年度の活動
講演会1
講演会2
例会
スペイン語で歌おう会
文化講座
3. 長崎とスペイン世界 1

ごあいさつ

長崎スペイン世界友の会は、2012年の10月12日に設立総会を開催してから、皆様のお蔭をもちまして、早いもので丸三年になります。当時友の会の発起人である徳山光先生とスペイン菓子の店サン・オノフレの山口正見さんと会発足の相談をしているとき、設立総会は段取りを考えると10月下旬が最適という話になり、10月ならば、どう考えてもコロンブスのアメリカ大陸発見の日である12日以外の設立はあり得ないとの思いから、十分な広報もできないまま、会のスタートに踏み切ってしまいました。

スペイン世界の国々にとってこの日ほど国家の歴史上重要な日はありません。キューバ以外はすべての国々で祭日に指定してお休みになっています。しかし、コロンブスのアメリカ大陸発見500周年を祝った1992年を前後して、この出来事の検証が盛んに行われ、祭日はそのままに各国で名称の変更が行われました。スペインは「民族の日」から「スペイン民族の日」と変わり、現在はあっさり説明のない「国家の祝日」になっています。ウルグアイの「アメリカ大陸の日」、コスタリカの「諸文化の日」、アルゼンチンの「文化的多様性を尊重する日」、チリーの「二つの世界の出会いの日」、ベネズエラやニカラグアの「原住民のレジスタンスの日」など、政治的背景によって様々です。受け止め方は別としても、地球に巨大隕石がぶつかったような変化が互いの

歴史・民族・文化にもあったことがわかっております。それから数十年後のことになりますが、日本も西洋文化の頂点にいたスペインの巨大なウエーブをかぶりました。アジアよりはるかに遠い文化との直接的な「出会い」を経験しました。その後、コロンブスが発見したアメリカ大陸の西海岸にあるアカプルコの港から船出して、地球を西回りでアジアへやって来たスペイン人コスメ・デ・トーレスにより、長崎の町は作られました。彼は、当時一般的であったアフリカ沿岸を南下しインド洋に入るポルトガル航路とは別のルートで地球を一周しアジアに到達した宣教師でした。現在、私たちが誇れる長崎の多様性は、海外の文化との交流の中で培われてきた大切な歴史の産物です。

「長崎スペイン世界友の会」の設立を、日付を最優先に決めたことの弊害はあったと思いますが、それは地道な活動でカバーできると信じています。コロンブスの偉業ほどのインパクトを長崎に与えることはあり得ませんが、スペイン世界の人々と交流し、その国の文化について学び、歴史の中で長崎がどのような影響を受けてきたのかを知る活動をする会の設立記念日がアメリカ大陸発見の日であるのは、悪くないと思っています。

会長 田村美代子

今年度の活動

1、講演会1

2014年10月25日スペイン友の会2周年記念行事として原田博二氏による「長崎開港とスペイン人宣教師コスメ・デ・トーレス神父」という題の講演会が開催されました。

1543年ポルトガル人が乗った中国船が種子島に漂着し、我が国とポルトガルの交易が始まりました。ポルトガル貿易港は1550年の平戸開港以来、1571年に長崎が開港されるまでの間、大村純忠とコスメ・デ・トーレスが話し合っ大村領内に横瀬浦(西海市)と福田(長崎市)を開港しました。その当時の痕跡を写真等で解説をしていただきました。

2、講演会2

2015年7月18日、メキシコ国立自治大学モレリア校西洋・東洋美術史の講師有村理恵氏により、「メキシコから長崎への贈り物ー長崎聖フィリッポ教会・日本二十六聖人記念館設立に至るまでの経緯と歴史背景ー」というテーマで特別講演会を開催しました。

1962年に完成した西坂の教会と記念館は、当時メキシコから寄せられた多くの寄付金を主な財源に建設されました。半世紀を経た今、現存するメキシコ側史料に基づいて、建設完成までの知られざる事実とその背景について、大変興味深いお話をいただきました。

詳細は『日本イスパニア学会 58号』に「La iglesia de San Felipe de Jesús y el Museo de los 26 Mártires en Nagasaki, un legado de México」に論文として掲載されています。

3、例会(毎月第4土曜日開催)

<26年度内容>

月日	報告者	テーマ
11月12日	Marina Tanzawa	スペインの食生活について
12月20日	Socorro	メキシコのトラスカラ州について
1月24日	Mariela	サルバドルと日本の違いについて
2月28	Juanita	ニカラグアの食とトルティージャ作り体験
3月28日	Aguilar	二十六聖人記念館とフィリッポ教会について
4月25日		長崎県美術館の講演会聴講
5月23日	Antonio Garcia修道士	グラナーダ近くの生まれ故郷について
6月27日	Stefania	バジャドリッドについて
8月22日	Viviana Osorio	コロンビアのコーヒー農園について
9月26日	Marina Tanzawa	スペインの結婚式について

4、スペイン語で歌おう会 毎月第2土曜日

クリスマス会にむけてスペイン語圏の曲を歌っています。

現在取り組んでいる曲

Las Mañanitas

La Golondrina

María Isabel

Amapola

Moliendo café

Quiéreme Mucho



5、文化講座 毎月第3土曜日

現在、徳山 光氏(元長崎県美術博物館学芸員)による長崎県美術館収蔵「須磨コレクション」についての美術史講座を開催しています。

現在実施している美術史講座について

1941年から46年までスペイン領事館領事として勤務された須磨弥吉郎氏は、在任中スペインにおいて2700点余にもものぼる美術品を購入され、一部が弥吉郎氏の手もとに返され、その多くが長崎県に譲渡されたことはご存じのとおりである。原則として毎週第3土曜日2時から行っている美術史講座では、その購入の折にそれぞれの資料についてのメモ「馬德里帳」の解説を行っている。「解説」とあえて言わなければならないくらいに氏独特の難解な文字に加え欧文交じりの文章であって、参加者の皆さんのご協力あつての作業である。「馬德里帳」(マドリちょう)には大体、購入順に番号が付され、日付、サイズとともに資料についての感想とともに、独自に調べられたことなどが記されている。また、後で制作されたアルバムとの関係についてのメモも追加されていて、すべてとはいえないが、それぞれの資料がどのようなものであったかが分かる写真資料を探すことも可能である。

また、長崎県美術館に収蔵されたものについてはカラーで撮影した画像も存在しているので、それらとの突き合わせも可能である。長崎県では収蔵した「須磨コレクション」のおもなものについてはスペインにおけるそれぞれの専門家や日本国内におけるスペイン美術の専門家による調査を行い、その結果はその調査ごとの時点でのカタログに掲載されていて、その解説との突き合わせも可能であり、須磨氏の記載との差異の確認も可能であって、その差異について考察すると須磨氏の見識を知ることができて非常に興味深い。資料の元の所有者やその他、出所についても知ることができるものもあり、この「馬德里帳」の解説は、須磨コレクションの再評価に欠かすことのできない作業であると確信して、須磨氏のプラド美術館図録を引用しての記載などの確認(所蔵番号は現在も同じである)を行い楽しんでいる。

元県立美術博物館学芸員 徳山 光

長崎とスペイン世界の出会い 1

(「全ての出会いにはその理由がある」と言われますが、このコーナーではあまり知られていない長崎とスペイン世界の結びつきを示す「もの」や「出来事」について紹介していきたいと思います。)

2015年8月20日に、ボリビアで行われたサンフアン(サンタクルス州)日本人移住地入植60周年記念式典に、長崎県から副知事浜本磨毅氏、県議会議員瀬川光之等四名の訪問団が参加されました。

なぜボリビアに？実は、日本は1950-60年代に中南米諸国と移住協定を結び、移民事業を始めました。敗戦で、それまでアジア各地に進出していた、数百万人の軍人や民間人が「内地」へと戻ってきましたが、日本は産業が破壊され、仕事も家もない人々が、国内にあふれていました。1956年に日本とボリビアの間で移住協定が結ばれ、一人50ヘクタールの土地が二年間の耕作を条件に与えられることになり、日本全国で1959年までの間に、入植者の募集が何回も行われました。蓋を開けてみるとサンタクルス州の熱帯の平原地域の開発のため移住することが決まったのは全国から302家族、1,684名、その内長崎県からは130家族の782名でした。1957年に起きた諫早大水害の影響が大きかったようです。

日本人入植者の約半数は本県出身者が占めていたサンフアンの植民地の共通語は長崎弁で、カトリックの人も多かったので、教会もほどなく建てられたとか。訪れた人々の話では、日本の

どこかの農村を切り取って移し替えたかのような生活がそのままそこにあり、そこに住むボリビア人も一緒に整然と日本で行われる学校運動会の準備に勤しんでいたそうです。

入植地は、現在サンフアン市になり、世帯数はかなり少なくなったものの、サンフアン農牧総合協同組合によると、組合員の農地の所有規模は平均約280ヘクタールで、栽培品種等は米、大豆、柑橘類、マカデミアナッツ、畜産(鶏、牛)などだそうです。

県の一行は、その中でも大規模に営農されている県人会員の、米・大豆等を栽培されている岩瀬さんの農地等(農地規模約600ha)とサンフアンで最大規模の養鶏農家である吉永さんの施設(飼育数約7万羽)を視察されたそうです。

移住60周年と同時に在ボリビア長崎県人会創立50周年記念式典も行われました。海外7か国(スペイン語圏ではアルゼンチン、ペルー、パラグアイ)にある長崎県人会の内、342人のメンバーを擁する最大のもので、「現地開催される式典に長崎県から訪問団が参加することにより、ボリビアとの交流促進及び移住者の世代交代が進む同県人会との関係強化を図った」との報告が県のホームページに書かれていました。1973年以来ボリビアからはほぼ毎年1名の研修生が長崎県に来ているとのことなので、これからも継続して関係が受け継がれていくことを願いましょう。

<長崎スペイン世界友の会>

入会金:2,000円、年会費:1,000円。関心のある方は、下記にご連絡ください。

連絡先:事務局所在地:

〒852-1855 長崎市中園町17番14号「カサ・イベリア」内

電話・Fax:095-844-3318

メール:<mailto:info@amigos-mundo-hispanico.jp>

URL :www.amigos-mundo-hispanico.jp

会員の方で、年会費の支払いがまだな方は、恐れ入りますが、例会等行事の時にお支払いください。ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方は下記に振り込みをして頂くと手数料がかからないそうです。

銀行:ゆうちょ銀行

名義:長崎スペイン世界友の会

店番:768

預金種目:普通預金

口座番号:2258073